

乙葉 裕子

乱丁

1	昭和十九年	八月二十二日	十九年	九月	六日	久米川	二部五年	
2	十九年	九月	七日	十九年	十月	七日	久米川	二部五年
3	十九年	十月	八日	十九年十一月	八日	久米川	二部五年	
4	十九年十一月	九日	二十年	二月	七日	久米川	二部五年	
5	二十年	二月	八日	二十年	三月十八日	久米川	二部五年	
6	二十年	四月	九日	二十年	六月二十日	福光	二部六年	
7	二十年	六月二十一日	二十年	十月	十日	福光	二部六年	
8	二十年	十月十一日	二十一年	三月	九日	福光	二部六年	

物資不足の折から、五人姉妹が皆学生で、親も大変だったようです。父は、使用済みで裏が使える紙を、中表に折って、同じ大きさ同士ひもでとじてノートを作ってくれました。大きいのもあり、小さいのもあり、厚いのもあり、薄いのもありました。用途によって使い分けるようにいわれましたが、私はそれを日記帳に使い、一冊使い終わると、次にどれを使うか楽しみでした。線がひいてない白い紙面に、字が真っすぐに書けるよう苦心して書いたものです。

昭和六十二年八月記す

異 裕子